

さくら第504号

令和3年12月

## さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7:TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

## 『二宮金次郎像から学ぶ』

二宮尊徳(にのみやそんとく:通称は二宮金次郎)は1787年に神奈川県の小田原市の裕福な農家に生まれましたが災害などで家を失い、幼いころに父と母を亡くしながらも、勉強と家の手伝いに励み、24歳の時に没落した家を再びもとにもどしました。

どのような人かといえは小学校の校庭などに置かれている薪(たきぎ)を背負い本を読みながら歩いている少年期のあの像の人です。

新しく開校した小学校には、歩きながらの読書は危険といい、切り株などに腰掛けて読んでいる像や、まったくない学校もあります。

ところで、読んでいる本には何が書いてあるのでしょうか。春江町にある福井県教育博物館には3体の石像があるので過日調べに行きました。男性職員に見学の訳を話すと一緒に見ていただきましたが、どれにも何も書いてなく白紙でした。

県珠算連合会では「そろばん学習支援ボランティア授業」を希望する小学3年と4年に続けて今年で16年目。その副読本を届ける際に坂井・あわら市内の小学校11校へ伺ったおりに像の有無と台座に彫られた字を確かめました。本はいずれも白紙でした。

しかし、像の台には「奉祝皇紀二千六百年・福井市本町伊藤仁作寄贈」、「報徳」、「感恩報徳、勤儉力行、辛酉」などと彫り込まれたり銅板などに書かれています。

ふだん何気なく見ている像ですが、何か書いてあるのか無いのかと詳しく見ることはないようです。たとえば、いつも通っていた広くて

大きな道を、ひと月ぶりに通ったところ大きな建物が無くなっており、以前はどんな建物だったかと思いついても分からないことがよくあります。記憶もあてにならないことがよくあります。そこでアンケートを書いてもらいました。

◆全体では名前を知らないが60%だが中学生では全員が知っていた◆像を見たことの有無では、中学生も含め82%が見ていない◆この像に関する話しで全体では85%が聞いたことがないと答え、中学生は60%が小学生の道徳の授業で頑張っている人だと答えた。ある中学3年生は母から、夜に二宮金次郎像が動くみたいな都市伝説を聞いたことがあるという◆どのような人で何をしたかと問えば、6年と中学生では、仕事も勉強も頑張っている、貧しいがいつでもどこでも勉強ができる、勤勉で家族思いなどと書く◆読んでいる本の内容を中学生では難しい学問の本、歴史、自作の勉強本、数学や漢文、商人の心得などと記入している。

ところで、二宮金次郎像が全国に広まったのは、昭和3年に昭和天皇の即位式にともない記念行事が各地で開かれ、神戸証券取引所理事長の中村直吉氏が即位式を記念し、全国83カ所へ二宮金次郎像を寄付。銅器生産日本一の高岡市の鑄造業者がこれを機に販売を拡大したのが大きな要因といえます。

二宮金次郎は自分の家を再興した手腕が役所に認められ疲弊した集落を復活させ、その数600あまりといえます。

有名な教えに「たらいの水」があります。水を自分の方に引き寄せようとすれば反対側へと流れます。逆に、向こうへ送るとやがて自分の方に大きな波となってもどります。このように、自分よりも相手のことを思い行動するとやがていいことが自分に戻ってくるという教えです。お風呂の中でためてください。

その時代の人達にしか理解できない事が多くあります。その時代に思いをはせ、どのような気持ちで何を考え、どう行動したかを考えてみるとまた違うイメージが浮かびます。